

2025年10月1日  
88号

# かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社日立製作所ひたちなか総合病院  
〒312-0057  
ひたちなか市石川町20番1  
TEL 029(354)5111  
発行人 渡辺明宏  
編集 広報委員会  
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>  
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

## ごあいさつ — 地域を護る病院として —



院長 吉井 慎一

かけはし10月号ということで、2025年度も残すところ半年となりました。

今年も猛暑が続き、また局地的豪雨による水害が多発しました。幸いこの地域は大きな災害はありませんでしたが、帰省やレジャーなど、影響を受けた方も多かったのではないのでしょうか。

医療を取り巻く環境は、2025年度に入ってさらに厳しくなっています。多くの病院で経営が悪化する一方、地方では、医師や看護師、薬剤師などの人手不足が今後さらに深刻化している状況です。その対策の一つとして国は、医療DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進しています。

医療の世界ではデジタル化はある程度進んでいますが、DXは限られた病院で入り口に立った程度です。デジタル化の主目的は、アナログな業務をデジタル技術で置き換えることで「既存業務の効率化」を図ることです。病院では、医師の診療だけでなく、多職種やチームでの膨大な業務が行われています。医療において、電子カルテはその中心にあります。皆様は、最近の医師はパソコンに向かって診療しており、対面で話をする時間が少ないと感じていますか。患者さんと向き合って問診、検査計画など説明し、その後で電子カルテに入力、検査指示を出すと、

診療時間は2倍近くかかります。電子カルテを見ながら話をする医師が多くなったのはこのためです。

医療DXの主目的は、デジタル技術を活用し、「ビジネス変革による新たな価値創出」を図ることです。これは医療者サイドだけではなく、患者サイド、さらには地域にまで、誰もが幸せになるための技術です。AI（人工知能）は、データ分析や自動化を可能にし、DXを実現するための主要な手段となります。

現在、電子カルテはAI機能搭載の開発が進んでいて、患者さんとの対面で話したことが電子カルテに自動的に入力され、AI機能にて標準医療言語に沿った文章になります。さらに、対話の中で出た検査も、自動的に電子カルテ上で入力されます。近い将来、想定される疾患や必要な検査、さらに最終診断もAIによって自動的に提示される時代になる可能性もあります。

医療の世界では、「標準化」と「個別性」が重要とされています。導かれた診断と治療が現時点で最適と判断されても、患者・家族の気持ちや希望、社会的背景なども考慮し、最終的に治療の方針や計画、内容を決めます。いや、これすらもAIはすでに最適な判断を導き出すことができるかもしれません。

多くの病院が理念として、「人」「温かさ」がキーワードになっていて、これが基本であることは間違いのないと思います。これらを守りながら医療DXを進め、人と人との関わりをより良いものにしていくことが必要かもしれません。

## ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

10月		11月		12月		1月															
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	④							①						①	②	③
10	⑤	6	7	8	9	10	⑪	11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔
月	⑫	⑬	14	15	16	17	⑱	月	⑨	10	11	12	13	14	⑮	月	⑭	15	16	17	⑱
	⑲	20	21	22	23	24	⑳		⑯	16	17	18	19	20	21	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
	㉖	27	28	29	30	31			㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日

## 形成外科

〈科の特徴・主とする対応疾患〉

体の表面に近い部分の外傷、先天異常、腫瘍、変形などに対し、手術などの方法で改善をめざします。当院では、切創・挫創・動物咬傷等の身体表層の外傷一般、熱傷、顔面骨骨折、手指の外傷、母斑・血管腫等の皮膚良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍、悪性腫瘍術後再建（乳房再建を含む）、瘢痕、ケロイド、難治性潰瘍、眼瞼下垂、巻き爪、下肢静脈瘤などを扱っております。

特殊な小児先天異常や、専門的な術後療法を要する悪性腫瘍などにつきましては、大学病院などの専門施設と連携して対応しています

〈診療体制〉

2025年10月現在、形成外科学会専門医の常勤医1名と非常勤医1名の体制で対応しております。日帰り手術はもちろんのこと、必要に応じて入院・全身麻酔下の手術も行っております。

診療時間内は、予約なしの来院でも可能な限り対応しておりますが、緊急処置・手術などにより対応困難な場合もありますので、出来る限り事前にお問い合わせをお願いします。

〈美肌治療について（自由診療）〉

当院では2024年6月に美肌治療器（Lumenis社・StellarM22）を導入しました。IPL（Intense Pulsed Light）という肌にやさしい光をお顔全体に照射して、シミ、くすみ、赤ら顔、小じわ、毛穴の開きなどを改善する美肌治療です。しみや赤ら顔などの改善とともに、真皮層にも働きかけることでコラーゲンを増生し、肌のキメや質感を整えます。

初回の診察・照射は医師が行い、状態を確認しながら治療をすすめていきます。

紫外線が落ち着く秋冬は美肌治療に良い時期ですので、シミや小じわなどが気になる方はぜひお問い合わせください。



形成外科医と専門スタッフ



美容治療を受けている様子

## メディカルクラーク

私たちは医師事務作業補助者（メディカルクラーク：MC）です。医師が診療に集中できるよう、事務的な業務をサポートしています。

主な業務は、診断書や紹介状などの文書作成補助や診療記録の代行入力、診療予約の管理、検査や処方方の代行入力などです。

医師や看護師をはじめ多職種とコミュニケーションは勿論、医療に関する幅広い知識が求められ、日々の研鑽が求められています。

私たちのモットーは「医師をサポートし、患者さんに寄り添う」です。安心してお声掛けください。お待ちしております。



メディカルクラークスタッフ

## 地域の先生紹介

## マナクリニック

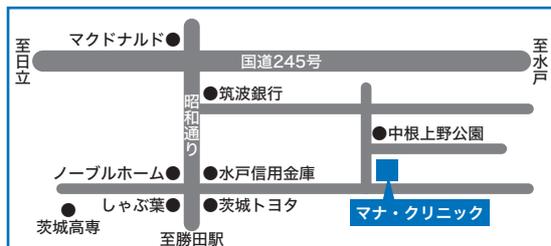
当院は2001年（平成13年）にスタートし、2019年（平成31年）4月より釧持明が院長を務めております。開院以来、一般内科、消化器科、外科、肛門疾患を中心とした診療を一貫して行ってきました。

私個人としては、研修医時代にひたちなか総合病院で内科・外科の6ヶ月間の研修を通じて、医師としての基盤を築く貴重な機会をいただきました。また、水戸総合病院からひたちなか総合病院への移転という変革期を経験させていただいた、非常に思い出深い病院です。

このたび当院も新たな変革期を迎え、2025年（令和7年）4月より渡邊峻医師が副院長兼診療部長に就任いたしました。渡邊医師は呼吸器疾患およびアレルギー疾患を専門としております。常勤医師2名体制となったことで、より多くの患者さんに対応できる環境が整いました。今後とも病診連携を一層深め、地域医療に貢献できれば幸いです。



左：釧持 明院長、右：渡邊 峻副院長



医療連携に関するお問い合わせは地域医療連携室へ

8：15～16：30（月曜日～金曜日）

TEL 029-354-5202（直通）

FAX 029-354-5220（直通）

## 高性能 CT 装置「SCENARIA View Plus」導入のお知らせ

当院では、2025年1月に富士フィルムヘルスケア社製の最新CT装置「SCENARIA View Plus」を導入しました。CT検査は、体の断面画像を撮影することで、病気の早期発見や診断に大きく役立つ検査です。

新しい装置では、より少ない放射線量で高画質な画像を得ることができ、身体への負担を軽減しながら、正確な診断が可能になりました。その背景には「IPV」というAI技術を活用した先進的な画像再構成技術があります。この機能により、被ばく線量を低減し、従来と同等もしくはそれ以上の画質を得ることが出来るようになりました。さらに「Body Still Shot」という動きに起因する画像のブレを抑える機能も搭載されています。従来装置において評価が困難であった拍動する心臓周囲の病変がより鮮明に評価できるようになるなど、より正確な検査が行えるようになりました。また、検査台は広めに設計され、閉塞感もなく、安心して検査を受けられる快適な環境が整っております。

当院では、今後も最新の医療機器と技術を駆使して、地域の皆様の健康をサポートしてまいります。CT検査についてご質問があれば、どうぞお気軽にご相談ください。



富士フィルムヘルスケア社製のSCENARIA View Plus

## 夏の疲れをお風呂でリセット！

今年の夏は猛暑が続き、長時間エアコンを使用した方も多いのではないのでしょうか。冷房の効いた空間に長く身を置くと、外気との温度差によって自律神経に大きな負担がかかり、体調を崩しやすくなってしまいます。集中力の低下やだるさ、寝つきの悪さなど、夏バテと呼ばれる不調を引きずらないために見直したいのが、お風呂の入り方です。入浴することで血行が促進され、筋肉のこわばりを改善したり、老廃物の排出を助けたりする効果があります。今回は体調を整えるための入浴のポイントをお伝えします。

### ●水分補給

入浴の前後にコップ1杯程度の水を飲みましょう。入浴でかく汗は約800mlとも言われています。血液をサラサラに保つために、入浴前の水分摂取はとても大切です。水のほか、麦茶や糖分の少ないイオン飲料でも良いでしょう。アルコールは利尿作用があるためお勧めしません。

### ●温度と時間

深部体温を上げるために、体温より少し高めめの38℃～40℃くらいのお湯に10分～15分ほどがお勧めです。温度が高すぎると凝りや疲れがとれにくく、また、時間が長すぎると肌の乾燥や体力の消耗につながり、湯あたりなどの原因にもなります。

### ●タイミング

就寝の1時間～2時間前が良いでしょう。お風呂で一時的に上がった体温が徐々に下がることで、自然な眠気

総合健診センター 二川裕美子

が訪れやすくなります。また、消化を助けるために食事の直後は避けましょう。血圧の変動を招くので、飲酒後の入浴も控えて下さい。

### ●全身浴と半身浴

肩までお湯に浸かる全身浴は、首回りや背中中の筋肉をほぐす効果が高く、体温を上げるのにも効果的です。一方、みぞおちあたりまで浸かる半身浴は下半身からゆっくり体を温め、心臓や肺に負担が少ないメリットがあります。どちらの場合も、浸かる前に手足のかけ湯をして血圧の急上昇を防ぎましょう。

毎日のお風呂を上手に使って、心身ともに充実した秋を楽しみましょう。

## ◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆

診療科	氏名	異動日
総合内科	高橋 克典	採用 (2025.10.1)
循環器内科	磯崎 大寿	退職 (2025.8.31)
神経内科	本多 美文	退職 (2025.9.30)
	沢 阜直樹	採用 (2025.10.1)
消化器外科	秋山 睦貴	退職 (2025.9.30)
	西浦 悠人	退職 (2025.9.30)
整形外科	宮崎 裕大	退職 (2025.9.30)
	澤地 由介	採用 (2025.10.1)
臨床研修医	大賀 浩銘	退職 (2025.9.30)
	伊藤 綾華	採用 (2025.10.1)
健康管理統括室	菅谷 文彦	退職 (2025.9.30)